令和４年度登録販売者試験問題

実 施 日 ： 令和４年８月２８日（日）
試験時間 ： １２：００～１４：００
内　　容 ： 医薬品に共通する特性と基本的な知識（２０問）
主な医薬品とその作用（４０問）

◎　問題用紙は、指示があるまで開かないでください。

【注意事項】

1　試験時間中は発言してはいけません。質問など用があるときは、だまって手を挙げて試験監督者の指示に従ってください。
2　携帯電話などの通信機器は、必ず電源を切っておいてください。
3　不正行為は絶対にしないでください。万一、発見した場合は、失格者として退場していただきます。
4　受験票は机に貼ってある受験番号を記載した札の横に置いてください。
5　受験票、鉛筆またはシャープペンシル、消しゴム、時計以外のものは机の上に置かないでください。
6　試験開始および試験終了は試験監督者の指示に従ってください。
7　試験が始まったら、解答用紙に受験番号および受験者氏名を忘れずに記入してから始めてください。
8　試験問題は、「医薬品に共通する特性と基本的な知識」１２ページ、「主な医薬品とその作用」２８ページの合計４０ページです。
　試験開始後、落丁がないことを確認してください。
9　各問題の正しい答えは一つしかないので、最も適当と思った答えを一つ選び、解答用紙に記入してください。
10　答えは丁寧に、はっきりと記載してください。また、答えを修正した場合は、必ず消しゴムであとが残らないよう完全に消してください。答えが判別できない場合は、不正解となるので注意してください。
11　問題用紙は、試験時間終了後持ち帰ることができます。
12　この試験における医薬品の名称および成分名は、厚生労働省作成の「試験問題の作成に関する手引き（令和４年３月）」に基づいています。
13　試験問題文中の「医薬品医療機器等法」は、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の略称です。

福　井　県

［医薬品に共通する特性と基本的な知識］

問１

医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　医療用医薬品に限らず一般用医薬品も、科学的な根拠に基づく適切な理解や判断によって適正な使用が図られる必要がある。

b　一般用医薬品の販売に従事する専門家は、随時新たに付加される医薬品の有効性、安全性等に関する情報の把握に努める必要がある。

c　人体に対して使用されない医薬品は、人の健康に影響を与えることはない。

d　一般用医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者等が知りたい情報を十分に得ることができるように、相談に対応することが不可欠である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問２

医薬品の効果とリスク評価に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　医薬品の投与量と効果の関係は、薬物用量の増加に伴い、効果の発現が検出されない「無作用量」から、最小有効量を経て「治療量」に至る。

b　動物実験で求められる５０％致死量（LD_{50}）は、薬物の有効性の指標として用いられる。

c　新規に開発される医薬品のリスク評価では、ＧＬＰ（Good Laboratory Practice）の他に、医薬品毒性試験法ガイドラインに沿った各種毒性試験が厳格に実施されている。

d　医薬品の効果とリスクは、用量と作用強度の関係（用量-反応関係）に基づいて評価される。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問３
健康食品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　一般用医薬品の販売時に健康食品の摂取の有無について確認することは、重要である。
b　いわゆる「健康食品」では、誤った使用方法や個々の体質により健康被害を生じた例が報告されている。
c　「特定保健用食品」は、事業者の責任で科学的根拠をもとに疾病に罹(り)患していない者の健康維持および増進に役立つ機能を商品のパッケージに表示するものとして国に届出された商品である。
d　いわゆる「健康食品」は、安全性や効果を担保する科学的データの面で医薬品と同等のものである。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問４
医薬品の副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　世界保健機関（ＷＨＯ）の定義によれば、疾病の予防のために人に通常用いられる量で発現する医薬品の有害かつ意図しない反応は、医薬品の副作用には含まれない。
b　医薬品の有効成分である薬物が生体の生理機能に影響を与えることを薬理作用といい、通常、薬物は単一の薬理作用を有する。
c　複数の疾病を有する人の場合、ある疾病のために使用された医薬品の作用によって、別の疾病の治療が妨げられることがある。
d　眠気や口渇等の日常生活に支障を来さない程度の症状は、副作用とは言わない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問５

アレルギーに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　通常の免疫反応と比べ、アレルギーにおいては過剰に組織に刺激を与える場合も多く、引き起こされた炎症自体が過度に苦痛を与えることになる。

b　アレルギーは、一般的にあらゆる物質によって起こり得るものであり、医薬品の薬理作用等とは関係なく起こり得る。

c　アレルギー症状は、結膜炎症状や鼻炎症状、蕁麻疹（じんしん）や湿疹（しん）等の皮膚症状および血管性浮腫のようなやや広い範囲にわたる腫れ等が生じることが多い。

d　医薬品の添加物は、アレルギーを引き起こす原因物質とはならない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問６

一般用医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　一般用医薬品は、軽度な疾病に伴う症状の改善等を図るためのものである。

b　一般用医薬品の使用に際しては、通常、その重大な副作用の回避よりも、使用を中断することによる不利益の回避が優先される。

c　一般用医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者等から副作用の発生の経過を聴いて、その後の適切な医薬品の選択に資する情報提供を行うほか、副作用の状況次第では、速やかに適切な医療機関を受診するよう勧奨する必要がある。

d　一般用医薬品を継続して使用する場合、医薬品の販売等に従事する専門家は、特段の異常が感じられなければ、医療機関を受診するよう購入者等に促す必要はない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問７

一般用医薬品の不適正な使用と副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　購入者等の誤解や認識不足が一般用医薬品の不適正な使用につながることがある。

b　疾病の根本的な治療や生活習慣の改善等がなされずに、一般用医薬品を使用して症状を一時的に緩和するだけの対処を漫然と続けていると、副作用を招く危険性が増す。

c　一般用医薬品は医療用医薬品に比べ作用が弱いため、乱用の繰り返しによる慢性的な臓器障害は生じない。

d　医薬品の販売等に従事する専門家は、一般用医薬品の適正な使用を図るため、購入者等の理解力や医薬品を使用する状況等に即して購入者等に説明をすべきである。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問８

他の医薬品との相互作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　複数の医薬品を併用した場合、医薬品の作用が増強することはあるが、減弱することはない。

b　医薬品の相互作用は、医薬品が薬理作用をもたらす部位や、医薬品の吸収、分布、代謝または排泄（せつ）の過程で起こる。

c　一般用医薬品は、一つの医薬品の中に作用の異なる複数の成分を組み合わせて含んでいることが多いため、他の医薬品と併用すると、同様な作用を持つ成分が重複することがある。

d　購入者等が医療機関・薬局から交付された薬剤を使用している場合には、一般用医薬品の販売等に従事する専門家が、一般用医薬品を併用しても問題ないかを判断する。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問９

食品と医薬品の相互作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　食品と医薬品の相互作用は、しばしば「飲み合わせ」と表現される。

b　酒類（アルコール）をよく摂取する者は、肝臓の代謝機能が高まっていることが多く、アセトアミノフェンでは、体内から速く消失して、十分な薬効が得られなくなることがある。

c　総合感冒薬とコーヒーを一緒に服用すると、カフェインの過剰摂取になる場合がある。

d　内服薬以外では、食品の摂取によって、医薬品の作用や代謝に影響を受ける可能性はない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問１０

小児への医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　５歳未満の幼児に使用される錠剤やカプセル剤などの医薬品では、服用時に喉につかえやすいので注意するよう添付文書に記載されている。

b　「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」において、新生児とは、おおよその目安として生後４週未満をいう。

c　小児は腎臓の機能が未発達であるため、医薬品の成分の排泄（せつ）に要する時間が短く、作用が弱くなることがある。

d　小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が短いため、服用した医薬品の吸収率が相対的に低く、期待する効果が得られない場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問１１
高齢者への医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多いが、一般用医薬品であれば持病の種類によらず、使用可能である。
b　一般に高齢者は生理機能が衰えつつあり、特に腎臓の機能が低下していると医薬品の作用は現れにくい。
c　医薬品の副作用等で口渇が生じた場合、高齢者は誤嚥（えん）を誘発しやすくなるので注意が必要である。
d　基礎体力や生理機能の衰えの度合いは個人差が大きく、年齢のみからどの程度副作用を生じるリスクが増大しているかを判断することは難しい。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問１２
妊婦または妊娠していると思われる女性および母乳を与える女性（授乳婦）への医薬品の使用等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　胎盤には、胎児の血液と母体の血液とが混ざらない仕組み（血液－胎盤関門）がある。
b　一般用医薬品では多くの場合、妊婦に対する安全性の評価は確立されているが、配慮が必要であるため、妊婦の使用については「相談すること」としているものが多い。
c　便秘薬は、配合成分やその用量にかかわらず、流産や早産が誘発されることはない。
d　医薬品の種類によっては、授乳婦が使用した医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することが知られている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問１３
プラセボ効果に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　医薬品を使用したとき、結果的または偶発的に薬理作用による作用を生じることをプラセボ効果という。
b　プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいもの（効果）と不都合なもの（副作用）がある。
c　プラセボ効果は、主観的な変化と客観的に測定可能な変化が、確実に現れる。
d　プラセボ効果は、時間経過による自然発生的な変化（自然緩解など）が関与して生じる場合があると考えられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問１４
医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　医薬品は、適切な保管・陳列がなされたとしても、経時変化による品質の劣化は避けられない。
b　医薬品に配合されている添加物成分は、高温や多湿、光（紫外線）等による品質の劣化（変質・変敗）を起こさない。
c　医薬品の外箱等に記載されている「使用期限」は、未開封状態で保管された場合に、品質が保持される期限である。
d　一般用医薬品は、購入された後、すぐに使用されるとは限らないため、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売することが重要である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問１５

一般用医薬品の選択およびセルフメディケーションに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　一般用医薬品は、医療機関での治療を受けるほどではない体調不良や疾病の初期段階、あるいは日常において、生活者が自らの疾病の治療、予防または生活の質の改善・向上を図ることを目的として用いられる。

b　身近にある一般用医薬品を利用する「セルフメディケーション」の主役は一般の生活者である。

c　一般用医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者等に対して常に科学的な根拠に基づいた正確な情報提供を行い、セルフメディケーションを適切に支援していくことが期待されている。

d　一般用医薬品で対処可能な症状等の範囲は、医薬品を使用する人によって変わるものではない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問１６
　一般用医薬品の販売時のコミュニケーションに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　医薬品の販売に従事する専門家からの情報提供は、専門用語を分かりやすい平易な表現で説明するだけでなく、説明した内容が購入者にどう理解されているか、などの実情を把握しながら行うことで、その実効性が高まる。
b　一般用医薬品については、必ずしも情報提供を受けた当人が医薬品を使用するとは限らないことを踏まえ、販売時のコミュニケーションを考える必要がある。
c　一般用医薬品は、すぐに使用する必要に迫られて購入されるとは限らず、家庭における常備薬として購入されることも多いため、販売等に従事する専門家においては、その点も把握に努めることが望ましい。
d　購入者が医薬品を使用する状況が変化する可能性は低いため、販売時のコミュニケーションの機会が継続的に確保されるような配慮は必要ない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問１７
　薬害および薬害の訴訟に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

a　薬害は、医薬品を十分注意して使用していれば、起こることはない。
b　Ｃ型肝炎訴訟を契機として、医師、薬剤師、法律家、薬害被害者などの委員により構成される医薬品等行政評価・監視委員会が設置された。
c　今まで国内で薬害の原因となったものは医療用医薬品のみである。
d　一般用医薬品の販売等に従事する者は、薬害事件の歴史を十分に理解し、医薬品の副作用等による健康被害の拡大防止に関し、その責務の一端を担っていることに留意しておく必要がある。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問１８

サリドマイドおよびサリドマイド訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　サリドマイド訴訟は、サリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常（サリドマイド胎芽症）が発生したことに対する損害賠償訴訟である。

b　サリドマイドは、妊娠している女性が摂取した場合、血液－胎盤関門を通過して胎児に移行する。

c　サリドマイドは、催眠鎮静成分として承認・販売されたが、副作用として血管新生を促進する作用がみられた。

d　サリドマイドによる薬害は、その光学異性体のうち、一方の異性体のみが有する作用であることから、もう一方の異性体を分離して製剤化した場合には、避けることができる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問１９

スモンおよびスモン訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　スモン訴訟は、キノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹(り)患したことに対する損害賠償訴訟である。

b　スモンの症状として、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺(しび)れや脱力、歩行困難等が現れる。

c　キノホルム製剤は、整腸剤として販売されていたが、現在、日本ではアメーバ赤痢にのみ使用されている。

d　スモン患者に対する施策や救済制度として、治療研究施設の整備、重症患者に対する介護事業等が講じられている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問２０

クロイツフェルト・ヤコブ病（ＣＪＤ）およびＣＪＤ訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ヒト乾燥硬膜に対して、十分な化学的処理が行われないまま製品として流通し、脳外科手術で移植された患者にＣＪＤが発生した。

b　ＣＪＤは、ウイルスの一種であるプリオンが脳の組織に感染することが原因とされ、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。

c　本訴訟の和解を踏まえて、ＣＪＤ患者に対する入院対策・在宅対策の充実の措置が講じられるようになった。

d　本訴訟を契機として、ヒト乾燥硬膜移植の有無を確認するため、患者診療録を長期保存する等の措置が講じられるようになった。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

［主な医薬品とその作用］

問２１

かぜ薬の配合成分に関する記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

かぜ薬とは、かぜの諸症状の緩和を目的として使用される医薬品の総称である。その中には、鼻粘膜の充血を和らげ、気管・気管支を拡げる成分として（　a　）、咳（せき）を抑える成分として（　b　）、およびくしゃみや鼻汁を抑える成分として（　c　）が配合されているものがある。

	a	b	c
1	グアイフェネシン	イソプロピル アンチピリン	エテンザミド
2	グアイフェネシン	ノスカピン	エテンザミド
3	メチルエフェドリン 塩酸塩	イソプロピル アンチピリン	エテンザミド
4	メチルエフェドリン 塩酸塩	イソプロピル アンチピリン	ヨウ化イソプロパミド
5	メチルエフェドリン 塩酸塩	ノスカピン	ヨウ化イソプロパミド

問２２

かぜ薬に含まれる炎症による腫れを和らげる成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　グリチルリチン酸二カリウムの作用本体であるグリチルリチン酸は、化学構造がステロイド性抗炎症成分に類似していることから、抗炎症作用を示すと考えられている。

b　グリチルリチン酸二カリウムは、血栓を起こすおそれのある人に使用する場合は、医師や薬剤師に相談するなどの対応が必要である。

c　トラネキサム酸は、体内での起炎物質の産生を抑制することで炎症の発生を抑え、腫れを和らげる。

d　トラネキサム酸を大量に摂取すると、偽アルドステロン症を生じるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問２３

体力虚弱のもののかぜの症状緩和に用いることができる漢方処方製剤の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　葛根湯（かっこんとう）

b　麻黄湯（まおうとう）

c　香蘇散（こうそさん）

d　小柴胡湯（しょうさいことう）

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問２４

鎮痛の目的で用いられる漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　芍薬甘草湯（しゃくやくかんぞうとう）は、体力中等度以下で手足が冷えて肩がこり、ときにみぞおちが膨満するものの頭痛、頭痛に伴う吐きけ・嘔（おう）吐、しゃっくりに適すとされる。

b　疎経活血湯（そけいかっけつとう）は、体力中等度で、痛みがあり、ときにしびれがあるものの関節痛、神経痛、腰痛、筋肉痛に適すとされる。

c　麻杏薏甘湯（まきょうよくかんとう）は体力中等度なものの関節痛、神経痛、筋肉痛、いぼ、手足のあれに適すとされる。

d　釣藤散（ちょうとうさん）は、体力中等度で、慢性に経過する頭痛、めまい、肩こりなどがあるものの慢性頭痛、神経症、高血圧の傾向のあるものに適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問２５

一般用医薬品の解熱鎮痛薬を購入する際に、受診勧奨が必要と考えられる症状の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　激しい腹痛や下痢などの消化器症状を伴う発熱

b　１週間以上続く発熱

c　年月の経過に伴って次第に増悪していくような月経痛

d　起床時に関節のこわばりを伴う関節痛

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問２６

次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度以下で、心身が疲れ、血色が悪く、ときに熱感を伴うものの貧血、不眠症、精神不安、神経症に適すとされる。

１　加味帰脾湯（かみきひとう）
２　桂枝加竜骨牡蛎湯（けいしかりゅうこつぼれいとう）
３　抑肝散（よくかんさん）
４　柴胡加竜骨牡蛎湯（さいこかりゅうこつぼれいとう）
５　小建中湯（しょうけんちゅうとう）

問２７

一般用医薬品に含まれる有効成分とアルコールとの相互作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　アルコールは、アスピリンによる胃腸障害を減弱する。
ｂ　アルコールは、解熱鎮痛成分の吸収に影響するが、代謝に影響を与えることはない。
ｃ　ジフェンヒドラミン塩酸塩は、アルコールとともに服用すると、薬効や副作用が減弱されるおそれがある。
ｄ　アセトアミノフェンは、アルコールとともに服用すると、肝機能障害が起こりやすくなる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問２８
一般用医薬品の催眠鎮静薬およびその配合成分等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　特段の基礎疾患がない人において、ストレス、疲労、時差ぼけ等の睡眠リズムの乱れが原因の一時的な不眠は、一般用医薬品で対処可能である。
b　入眠障害、熟眠障害、中途覚醒、早朝覚醒等の症状が慢性的に続いている不眠は、抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬により対処可能である。
c　１５歳未満の小児では、抗ヒスタミン成分により眠気とは反対の中枢興奮などの副作用が起きやすいため、使用は避ける。
d　妊娠中にしばしば生じる睡眠障害は、ホルモンのバランスや体形の変化等が原因であり、睡眠改善薬の適用対象でない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問２９
眠気防止薬の有効成分として配合されるカフェインに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　脳を興奮させる作用があり、脳が過剰に興奮すると、副作用として振戦（震え）、めまい、不安、頭痛等を生じることがある。
b　心筋を興奮させる作用があり、副作用として、動悸が現れることがある。
c　腎臓におけるナトリウムイオンの再吸収促進作用があり、尿量を減少させる。
d　胃液分泌抑制作用があり、その結果、副作用として胃腸障害（食欲不振・悪心・嘔吐）が現れることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問３０

乗物酔い防止薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　不安や緊張などの心理的要因による影響を和らげることを目的として、アリルイソプロピルアセチル尿素のような鎮静成分が配合されている場合がある。

b　アミノ安息香酸エチルは、脳に軽い興奮を起こさせて平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させることを目的として用いられる。

c　メクリジン塩酸塩は、吐きけの防止・緩和を目的として配合されることがある抗ヒスタミン成分である。

d　ジフェニドール塩酸塩は、胃粘膜への麻酔作用によって嘔(おう)吐刺激を和らげる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問３１

咳止めや痰を出しやすくする目的で用いられる漢方処方製剤および生薬成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　麻杏甘石湯は、体力中等度以上で、咳が出て、ときにのどが渇くものの咳、小児喘息、気管支喘息、気管支炎、感冒、痔の痛みに適すとされる。

b　半夏厚朴湯は、構成生薬としてカンゾウを含むため、摂取されるグリチルリチン酸の総量が継続して多くならないよう注意を促すことが重要である。

c　キョウニンは、体内で分解されて生じた代謝物の一部が延髄の呼吸中枢、咳嗽中枢を興奮させる作用を示すとされる。

d　麦門冬湯は、体力中等度で、気分がふさいで、咽喉、食道部に異物感があり、かぜをひきやすく、ときに動悸、めまい、嘔気などを伴うものの小児喘息、気管支喘息、気管支炎、咳、不安神経症、虚弱体質に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問３２

胃に作用する薬およびその配合成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

a　消化成分のうち、胆汁分泌促進作用があるものは肝臓病の症状を悪化させるおそれがある。

b　制酸成分を主体とする胃腸薬については、酸度の高い食品と一緒に使用すると胃酸に対する中和作用が低下すると考えられている。

c　健胃薬は、炭水化物、脂質、タンパク質等の分解に働く酵素を補う等により、胃の内容物の消化を助けることを目的とする医薬品である。

d　ピレンゼピン塩酸塩などの胃液分泌抑制成分は、副交感神経の伝達物質であるアセチルコリンの働きを促進する。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｄ）　３（ｂ、ｃ）　４（ｃ、ｄ）

問３３

胃の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　安中散（あんちゅうさん）は、体力虚弱で、疲れやすくて手足などが冷えやすいものの胃腸虚弱、下痢、嘔（おう）吐、胃痛、腹痛、急・慢性胃炎に適すとされる。

b　六君子湯（りっくんしとう）は、体力中等度以下で、胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの胃炎、胃腸虚弱、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔（おう）吐に適すとされる。

c　平胃散（へいいさん）は、体力中等度以上で、胃がもたれて消化が悪く、ときに吐きけ、食後に腹が鳴って下痢の傾向のあるものの食べすぎによる胃のもたれ、急・慢性胃炎、消化不良、食欲不振に適すとされる。

d　人参湯（にんじんとう）は、体力中等度以下で腹部は力がなくて、胃痛または腹痛があって、ときに胸やけや、げっぷ、胃もたれ、食欲不振、吐きけ、嘔（おう）吐などを伴うものの神経性胃炎、慢性胃炎、胃腸虚弱に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

問３４

整腸薬または止瀉(しゃ)薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　タンニン酸ベルベリンは、タンニン酸の抗菌作用とベルベリンの収斂(れん)作用による止瀉(しゃ)を期待して用いられる。

b　トリメブチンマレイン酸塩は、腸内細菌のバランスを整える作用による整腸を期待して用いられる。

c　ロペラミド塩酸塩は、水あたりや食あたりによる下痢の症状に用いることを目的として配合される。

d　次没食子酸(もっしょくし)ビスマスは、腸粘膜のタンパク質と結合して不溶性の膜を形成し、腸粘膜を引きしめることにより、腸粘膜を保護する。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

問３５

瀉(しゃ)下薬の配合成分に関する記述について、誤っているものはどれか。

1　ピコスルファートナトリウムは、腸管内で水分を吸収して腸内容物に浸透し、糞(ふん)便のかさを増すとともに糞(ふん)便を柔らかくする。

2　センノシドは、大腸に生息する腸内細菌によって分解され、分解生成物が大腸を刺激することで瀉(しゃ)下作用をもたらすと考えられている。

3　ヒマシ油は、その分解物が小腸を刺激することで瀉(しゃ)下作用をもたらすと考えられている。

4　水酸化マグネシウム等の無機塩類は、腸内容物の浸透圧を高めることで糞(ふん)便中の水分量を増し、また、大腸を刺激して排便を促す。

5　マルツエキスは、主成分である麦芽糖が腸内細菌によって分解（発酵）して生じるガスによって便通を促すとされている。

問３６

胃腸鎮痛鎮痙(けい)薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ブチルスコポラミン臭化物は、鎮痛鎮痙(けい)のほか、胃酸過多や胸やけに対する効果も期待して用いられる。

b　ロートエキスには、縮瞳による目のかすみや排尿困難といった副作用が現れることがある。

c　オキセサゼインは、消化管の粘膜および平滑筋に対する局所麻酔作用による鎮痛鎮痙(けい)効果を期待して用いられる。

d　パパベリン塩酸塩は、胃液分泌を抑える作用もあるため、胃酸過多や胸焼けに対する効果も期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問３７

一般用医薬品の強心薬の配合成分とその配合目的としての作用および使用の際の注意事項に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	配合成分	配合目的としての作用および使用の際の注意事項
a	リュウノウ	中枢神経系の刺激による気つけの効果が期待できる強心成分である。
b	ゴオウ	強心作用を示すほか、興奮を静める作用があるとされる。
c	ジャコウ	微量で強い強心作用を示すため、１日用量は５ｍｇ以下に定められている。
d	センソ	強心作用を示すほか、皮膚や粘膜に触れると局所麻酔作用を示すとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問３８

一般用医薬品の高コレステロール改善薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ビタミンＢ６は、酵素によりフラビンアデニンジヌクレオチドへと活性化され、補酵素として働く。

b　ビタミンＥは、コレステロールからの過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管の血行促進作用があるとされる。

c　リノール酸は、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。

d　大豆油不けん化物（ソイステロール）には、低密度リポタンパク質（ＬＤＬ）等の異化排泄（せつ）を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、高密度リポタンパク質（ＨＤＬ）産生を高める作用があるとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問３９

ダイエット中の２５歳女性が、最近、疲れやすく血色不良があり、次の成分の一般用医薬品の貧血用薬（鉄製剤）を購入する目的で店舗を訪れた。

１錠中：

成分	分量	内訳
溶性ピロリン酸第二鉄	７９．５　ｍｇ	（鉄　１０ｍｇ）
アスコルビン酸	５０　ｍｇ	
トコフェロール酢酸エステル	１０　ｍｇ	
シアノコバラミン	５０　μｇ	
葉酸	１　ｍｇ	

この貧血用薬（鉄製剤）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　この医薬品を服用した後に便が黒くなることがあるが、服用前から便が黒い場合は貧血の原因として消化管内で出血している場合もあるため、服用前の便の状況との対比が必要である。

b　鉄分の吸収は空腹時のほうが高いとされ、消化器系への副作用を軽減するためにも、この医薬品は食前に服用することが望ましい。

c　この医薬品は、緑茶や紅茶で服用すると、鉄の吸収が良くなり、効果が高まることが期待できる。

d　この医薬品には、鉄分のほか、正常な赤血球の形成に働くビタミンが配合されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

問４０

６５歳男性で排便に伴う切れ痔の痛みと出血の症状があるため、次の成分の一般用医薬品の外用痔疾用薬を購入する目的で店舗を訪れた。

１個（１．４ｇ）中：

成分	分量
リドカイン塩酸塩	６０　ｍｇ
メチルエフェドリン塩酸塩	５　ｍｇ
ヒドロコルチゾン酢酸エステル	５　ｍｇ
イソプロピルメチルフェノール	２　ｍｇ
アラントイン	２０　ｍｇ
卵黄油	１００　ｍｇ
ユーカリ油	２　ｍｇ

この外用痔疾用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　この医薬品に配合されるリドカイン塩酸塩は、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることがある。

ｂ　この医薬品には、交感神経系を刺激する成分が配合されているので、高齢者ではその適否を十分考慮し、使用する場合には慎重な使用がなされることが重要である。

ｃ　この医薬品には、血管収縮作用による止血効果を期待して、アラントインが配合されている。

ｄ　この医薬品には、粘膜表面に不溶性の膜を形成することによる、粘膜の保護・止血を目的として、卵黄油が配合されている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問４１
次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度以下で、冷え症、貧血気味、神経過敏で、動悸（どうき）、息切れ、ときにねあせ、頭部の発汗、口の渇きがあるものの更年期障害、血の道症、不眠症、神経症、動悸（どうき）、息切れ、かぜの後期の症状、気管支炎に適すとされる。
まれに重篤な副作用として、間質性肺炎、肝機能障害を生じることが知られている。

１　温経湯（うんけいとう）
２　当帰芍薬散（とうきしゃくやくさん）
３　桂枝茯苓丸（けいしぶくりょうがん）
４　四物湯（しもつとう）
５　柴胡桂枝乾姜湯（さいこけいしかんきょうとう）

問４２

車で通勤する３０歳女性が、仕事中に咳がひどく、周りに迷惑がかからないように咳を鎮めたいため、次の成分の一般用医薬品の鎮咳去痰薬を購入する目的で店舗を訪れた。

６０ｍＬ中：

成分	分量
ジヒドロコデインリン酸塩	３０　ｍｇ
グアイフェネシン	１７０　ｍｇ
クロルフェニラミンマレイン酸塩	１２　ｍｇ
無水カフェイン	６２　ｍｇ

この女性に対する登録販売者の対応に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　この医薬品は１２歳未満の小児には使用できないことから、本人が使用することを確認した。

b　授乳中の人は、この医薬品を服用しないか、服用する場合は授乳を避ける必要があると購入者に説明した。

c　この医薬品には、鎮咳成分、去痰成分および抗ヒスタミン成分が含まれることを説明した。

d　この医薬品を服用した後は、乗物または機械類の運転操作を避けるよう説明した。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問４３

一般用医薬品の鼻炎用内服薬に配合されている成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　プソイドエフェドリン塩酸塩が配合されている場合は、長期間にわたって連用した場合、薬物依存につながるおそれがある。

b　鼻腔（くう）における副交感神経の働きを抑えることで、鼻汁の分泌やくしゃみを抑えることを目的として、ベラドンナ総アルカロイドが配合されている場合がある。

c　クレマスチンフマル酸塩が配合されている場合は、抗ヒスタミン作用以外にコリン作用（アセチルコリンに類似した作用）も示すため、使用には注意が必要である。

d　鼻粘膜の血管を拡張させることによって鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として、フェニレフリン塩酸塩が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問４４

一般用医薬品のアレルギー用薬およびアレルギー症状の治療に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　鼻炎用内服薬と鼻炎用点鼻薬は、同じ成分または同種の作用を有する成分が重複することもあり、医薬品の販売等に従事する専門家はそれらが併用されることのないよう注意が必要である。

b　アトピー性皮膚炎が疑われる場合やその診断が確定している場合は、医師の受診を勧めることが重要である。

c　皮膚感染症による湿疹（しん）の痒（かゆ）み症状に対しては、アレルギー用薬を使用して症状の緩和を図るのではなく、皮膚感染症そのものへの対処を優先する必要がある。

d　医療機関での検査によりアレルゲンを厳密に特定した場合は、医師の指導の下、減感作療法が行われることがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問４５

一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬およびその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　クロモグリク酸ナトリウムは、肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑えることにより、鼻アレルギー症状を緩和することを目的として、配合されている場合がある。

b　クロルフェニラミンマレイン酸塩は、肥満細胞から遊離したヒスタミンとヒスタミン受容体との結合を妨げることにより、鼻アレルギー症状を緩和することを目的として、配合されている場合がある。

c　テトラヒドロゾリン塩酸塩は、鼻粘膜を通っている血管を拡張させる作用を示すため、鼻粘膜症状の緩和を目的として配合されている場合がある。

d　アドレナリン作動成分を含む鼻炎用点鼻薬は、長期連用は避けることとされており、３日間位使用しても症状の改善がみられない場合には、使用を中止して医療機関を受診するなどの対応が必要である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問４６
眼科用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものはない。
b　点眼薬は、結膜嚢（結膜で覆われた眼瞼の内側と眼球の間の空間）に適用するものであるが、１滴の薬液量は結膜嚢の容積の５０％程度に設定されている。
c　点眼薬は無菌的に製造されるが、医薬品医療機器等法の規定により必ず防腐剤が配合されている。
d　点眼後は、しばらくまばたきを繰り返して、薬液を結膜嚢内に行き渡らせるとよい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問４７
一般用医薬品の眼科用薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ネオスチグミンメチル硫酸塩は、毛様体におけるアセチルコリンの働きを抑えることで、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。
b　ヒスタミンの働きを抑えることにより、目の痒みを和らげることを目的として、ケトチフェンフマル酸塩が配合されている場合がある。
c　パンテノールは、結膜の充血を改善するのに必須なビタミン成分である。
d　イプシロン-アミノカプロン酸は、目の乾きを改善する有効成分として眼科用薬に用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問４８

次の成分を含む鎮痛消炎貼付剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

１００ｇ中：

成分	分量
サリチル酸グリコール	２．０　ｇ
トコフェロール酢酸エステル	１．０　ｇ
メントール	１．０　ｇ

a　サリチル酸グリコールは、局所刺激により患部の血行を促し、また末梢の知覚神経に軽い麻痺（ひ）を起こすことにより、鎮痛作用をもたらす。

b　トコフェロール酢酸エステルは、患部局所の血行を促す目的で配合されているが、血液凝固を抑える働きもあるため、血友病などの出血性血液疾患の診断を受けた人では使用を避ける。

c　メントールは、冷感刺激成分であり、患部の血行を促す効果や鎮痛・鎮痒（よう）効果を期待して配合されている。

d　本剤は、打撲や捻挫などの急性の腫れや熱感を伴う症状には適さない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問４９
　外皮用薬およびその配合成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

a　紫雲膏（しうんこう）は、ひび、あかぎれ、しもやけ、うおのめ、あせも、ただれ、外傷、火傷、痔核（じかく）による疼痛（とうつう）、肛門（こうもん）裂傷、湿疹（しっしん）・皮膚炎に適すとされる。
b　ナファゾリン塩酸塩は、創傷面に浸透して、血管を収縮させることによって創傷面からの出血を抑制する効果がある。
c　サリチル酸は、皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示す。
d　イブプロフェンの誘導体であるイブプロフェンピコノールは、吹き出物に伴う皮膚の発赤や腫れを抑えるほか、鎮痛作用も期待して配合される。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問５０
　外皮用薬およびその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　貼付剤は、同じ部位に連続して貼付すると、かぶれ等を生じやすくなる。
b　スプレー剤やエアゾール剤は、できるだけ吸入しないよう、口や鼻から遠ざけ、患部の至近距離から噴霧することが望ましい。
c　一般的に、じゅくじゅくと湿潤している患部には、有効成分の浸透性が高い液剤が適している。
d　温感刺激成分が配合された外皮用薬は、貼付部位をコタツ等の保温器具で温めると強い痛みを生じやすくなるほか、いわゆる低温やけどを引き起こすおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問５１

毛髪用薬の配合成分とその配合目的としての作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	配合成分	配合目的としての作用
a	カルプロニウム塩化物	アセチルコリンに類似した作用により、頭皮の血管拡張と毛根への血行を促進する。
b	エストラジオール安息香酸エステル	女性ホルモンの作用により、脱毛を抑制する。
c	ヒノキチオール	頭皮の脂質代謝を高め、余分な皮脂を取り除く。
d	カシュウ	頭皮の血行を促進し、炎症を抑制する。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問５２

歯槽膿漏薬および口内炎用薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　セチルピリジニウム塩化物は、歯槽膿漏薬において細菌の繁殖を抑えることを目的として配合されている。

b　イソプロピルメチルフェノールは、炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して配合されている。

c　グリチルレチン酸は、歯周組織や口腔粘膜の炎症を和らげることを目的として配合されている。

d　アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）は、口内炎時の口腔粘膜の組織修復を促す作用を期待して配合される。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問５３

一般用医薬品の禁煙補助剤に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

a　禁煙補助剤は、鎮咳去痰薬、鼻炎用薬、痔疾用薬等のアドレナリン作動成分が配合された医薬品と併用すると、これら併用された医薬品の作用を増強させるおそれがある。

b　咀嚼剤は、ゆっくりと断続的に噛むことにより口腔内に放出されたニコチンが、主として腸管から吸収されて循環血液中に移行することにより効果を発揮する。

c　咀嚼剤は、口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が低下するため、コーヒーや炭酸飲料を摂取した後しばらくは使用を避ける。

d　禁煙補助剤の使用開始から１～２週間の間に、血中ニコチン濃度の上昇によって生じるニコチン離脱症状（イライラ感、集中困難、落ち着かない等）が現れることがある。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問５４
ビタミン主薬製剤に配合されるビタミン成分のうち、次の記述にあてはまる最も適切なものはどれか。

炭水化物からのエネルギー産生に不可欠な栄養素で、神経の正常な働きを維持する作用や、腸管運動を促進する働きがある。
その主薬製剤は、神経痛、筋肉痛・関節痛（肩・腰・肘・膝痛、肩こり、五十肩など）、手足のしびれ、便秘、眼精疲労（慢性的な目の疲れおよびそれに伴う目のかすみ・目の奥の痛み）の症状の緩和、脚気症状の緩和に用いられる。

１　ビタミンＡ
２　ビタミンＢ１
３　ビタミンＢ２
４　ビタミンＢ６
５　ビタミンＢ１２

問５５
滋養強壮保健薬の配合成分および生薬成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　ヘスペリジンは、ビタミン様物質のひとつで、骨格筋に溜まった乳酸の分解を促す等の働きを期待して、滋養強壮保健薬に配合されている場合がある。
ｂ　ハンピは、強壮、血行促進、性機能の亢（こう）進等の作用を期待して用いられる。
ｃ　グルクロノラクトンは、肝臓の働きを助け、肝血流を促進する働きがあるとされる。
ｄ　アミノエチルスルホン酸（タウリン）は、筋肉にのみ存在し、細胞の機能が正常に働くために重要な物質である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

問５６

漢方の特徴・漢方薬使用における基本的な考え方に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　漢方薬とは、古来に中国において発展してきた伝統医学で用いる薬剤全体を概念的に広く表現する時に用いる言葉である。
b　現代では、一般用医薬品の漢方処方製剤として、処方に基づく生薬混合物の浸出液を濃縮して調製された乾燥エキス製剤を散剤等に加工したもののみが、市販されている。
c　漢方薬を使用する場合、漢方独自の病態認識である「証」に基づいて用いることが、有効性および安全性を確保するために重要である。
d　漢方の病態認識には、虚実、陰陽、気血水、五臓などがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問５７

次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節の腫れや痛み、むくみ、多汗症、肥満症（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）に適すとされる。

1　黄連解毒湯（おうれんげどくとう）
2　清上防風湯（せいじょうぼうふうとう）
3　防風通聖散（ぼうふうつうしょうさん）
4　大柴胡湯（だいさいことう）
5　防已黄耆湯（ぼういおうぎとう）

問５８

消毒薬、殺菌消毒成分およびその取扱い上の注意に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　酸性やアルカリ性の消毒薬が目に入った場合は、中和剤を使って早期に十分な時間（１５分間以上）洗眼するのがよい。

b　サラシ粉などの塩素系殺菌消毒成分は、強い酸化力により、一般細菌類、真菌類に対し殺菌消毒作用を示すが、大部分のウイルスに対する作用はない。

c　エタノールは、微生物のタンパク質の変性作用を有し、結核菌を含む一般細菌類のみならず、真菌類に対しても殺菌消毒作用を示す。

d　クレゾール石ケン液の原液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、大部分のウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問５９

殺虫剤・忌避剤およびその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　忌避剤は、衛生害虫が疾病を媒介するのを防止する効果に加え、虫さされによる痒（かゆ）みなどの症状を和らげる効果を有する。

b　野外など医薬部外品の殺虫剤（蚊取り線香など）の効果が十分には期待できない場所では、忌避剤を用いて蚊による吸血の防止を図る。

c　ディートを含有する忌避剤は、生後６ヶ月未満の乳児については、顔面への使用を避け、１日の使用限度（１日１回）を守って使用する必要がある。

d　スプレー剤となっている忌避剤を顔面に使用する場合は、直接顔面に噴霧せず、いったん手のひらに噴霧してから必要な場所に塗布する等の対応が必要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問６０

一般用検査薬の妊娠検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　妊娠検査薬は、通常、実際に妊娠が成立してから４週目前後の尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン濃度を検出感度としている。

b　一般的な妊娠検査薬は、月経予定日を過ぎて概ね１週目以降に検査することが推奨されている。

c　妊娠検査薬の検出反応は、検出対象となる物質と特異的に反応する抗体や酵素を用いたものであるため、検査操作を行う場所の室温が極端に高温の場合には影響を受けるが、室温が極端に低温の場合には影響を受けにくい。

d　経口避妊薬や更年期障害治療薬などのホルモン剤を使用している人では、妊娠していなくても検査結果が陽性となることがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正